

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(3/4)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区(岡山県)	3.9	4.7 進捗度 ・企業間連携による用役コストの低減 300% ・水島港の輸送効率改善による貨物取扱量 94% ・企業集積によるコンビナートの成長と雇用の確保 239%	3.3 規制の特例等 ・地域活性化総合特別区域ガス融通事業 ・回送運行効率化事業 ・分割可能貨物輸送効率化事業 <u>地域独自の取組</u> ・高圧ガス保安法に係る保安検査報告書の提出期限の延長等	3.8	<p>・数値目標を十分に達成しており、順調に進捗していると判断される。</p> <p>・規制の特例措置等に係る所管府省の意見として特例措置の効果が認められるとされる事業がある点に関しては評価できる。</p> <p>・特区の最終的な目標が国内・国際的にみて競争力の高い「モデルコンビナート」の実現であるとする、海外からの新規企業立地も視野に入れ、新規企業でも高効率・省資源型の生産がすぐに始められるような受入れモデルも長期的に形成する必要がある。また、環境・エネルギー分野の製造業が集積できるような技術・情報ネットワークを構築・活用できるコンビナートとしての国際的な優位性をアピール・活用する戦略も必要になる。</p> <p>・企業間連携による用役コスト低減について、低コストボイラーが実際に全て稼働を開始した初年度(平成30年)に5年後の目標値55%を上回った実績からすると、目標値の上方修正も検討してもよいのではないかと。</p> <p>・特区による効果なのか、補助金適用対象の拡大など地域独自の施策による効果なのか、または景気拡大によるものであるのか判然としない。引き続き見極める必要がある。</p>